

## 令和2年度第4回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和2年12月17日（木曜） 16：00～18：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、岡村隆広委員、神子島健委員、神山直子委員、堤香苗委員、  
真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：木本喜美子委員、藤江美也子委員

事務局：河島課長、西担当主査、吉田主事

傍聴者：2名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 次 第

#### 1 開会

#### 2 議題

「第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画」素案（取組み事業）について

資料1 「第4次女と男がともに生きる行動計画」概要

資料2 「第4次女と男がともに生きる行動計画」体系案

資料3 「第4次女と男がともに生きる行動計画」取組み事業一覧（素案）

資料4 「第4次女と男がともに生きる行動計画」基本目標説明資料

資料5 「第4次女と男がともに生きる行動計画」課題・施策説明資料

◇「第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画」素案及び取組み事業について、事務局から説明した。

#### <新型コロナウイルス>

◎この時期に策定する計画なのであれば、新型コロナウイルスの影響等について記載する必要があるのではないか。具体的な取組みに盛り込まなくても、前段でしっかり述べ、多摩市が新型コロナウイルスの影響について真剣に考えている、という印象付けが大切だと考える。

#### <重点取組：性的指向・性自認に関する課題を抱えている当事者等への支援>

◎（仮称）パートナーシップ制度について、市主導ではなく市民が中心となつてつくるのもよいのではないか。

◎他自治体や外部団体とパートナーシップ制度について考えるサミットのようなイベントを多摩市が実施してもよいのではないか。

○パートナーシップ制度を早急につくり、教育現場での指導など、その先の取組みについて考えてほしい。

**<重点取組：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の意識啓発と情報提供>**

- 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉はワークがあることが前提となっているが、ワークがない人は対象外となってしまうのか。
- そもそも「ワーク・ライフ・バランス」という言葉自体がもう古いのではないか。
- 職業訓練等に力を入れたり、仕事が継続できたりするような支援を行ってほしい。

**<重点取組：男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりの推進>**

- ◎災害対策は他自治体との相互協力が重要であるため、他自治体とのつながりをしっかりと持つべきだと考える。
- 市の子育て関係の会議では、エリアごとに関係機関を集めて意見交換を行っている。この会議の災害対策版のようなものがあれば良いと考える。
- 訓練を年1回実施するというのは、季節ごとに異なる災害の特性に対応できないのではないか。消極的・受動的に感じられる。
- 年1回の実施でも、毎年開催時期を変えれば季節ごとの災害の特性に対応できるのではないか。
- 市民に向けて動画の避難マニュアル等を作成しても良いのではないか。

**<重点取組：暴力防止に向けた意識啓発と情報提供>**

- 男性へのアプローチは何かできないのか。
- アンガーマネジメントやDV加害者更生プログラムは、敷居が低くなるとより参加しやすくなると考える。
- 病院など、相談窓口以外からも相談できると良いのではないか。
- LINE等で、気軽に相談したり悩みを吐露したりできる場所があると良いのではないか。ピアカウンセリングのような形式でも良いと考える。

**<重点取組：TAMA女性センターの充実>**

- 女性センターに現在より予算をつけて、大きな事業ができると良いのではないか。
- ハローワークとの連携ができると女性センターの利用者が増えるのではないか。
- ◎Web会議システムを導入し、市民も会議等で使えるようにすると、女性センターの利用者が増えるのではないか。

**<その他>**

- 目標や評価について、講座や研修の実施回数ではなく、内容が大切であるため評価基準を満足度等にした方が良いのではないか。
- 計画の見直しは中間の5年目で良いのか。状況に応じてその都度見直すということも考えられるのではないか。

**3 その他**

- ◇第5回審議会日程は再度調整することとする。

**4 閉会**